

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第22号 [2010年7月号]

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第22号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

シンシア先生の本が出ます	[2]
勉強会開催のお知らせ	[3]
現地スタッフ帰国報告会及びJAM総会	[3]
メソト・マンズリー	今月のメソトの様子をお知らせします。（田辺 文）
・ 内科隔離病棟の改築始まる	[4]
・ きょうのゆめ	[4]
・ とある日の朝	[5]
・ たずねびと	[6]
国内から	（秋山 剛）
・ メソト周辺のビルマ人移民学校について	[7]
編集後記	[8]
次号の予定	[9]



ロゴ選考が終わりました！

結果は、9月5日（土）の総会にて発表の上、入賞者3名を表彰いたします。

シンシア医師の本が出ます

『タイ・ビルマ 国境の難民診療所—
女医シンシア・マウンの物語』

（新泉社、1800円）



7月25日（日）より、
全国の書店、またはアマゾン等で発売開始！！

当会が編集協力した『タイ・ビルマ国境の難民診療所—女医シンシア・マウンの物語』（新泉社、定価1800円）が7月25日にいよいよ発売になります。

本書は、当会の支援先であるメータオ・クリニックとその創始者シンシア・マウン医師に焦点をあてたものです。当会は、さまざまな現地情報の提供、スタッフの梶藍子看護師による体験記の収録等で協力しました。

本書の印税は、当会を通してクリニックへ全額寄付されます。

ぜひお買い求め下さい！！

タイ・ビルマ国境の町メソット。ビルマ軍事政権の弾圧を逃れてタイにやってきたものの、お金がなく、病院に行くことができない難民や移民に、無料診察を続けている診療所「メータオ・クリニック」。自身もカレン難民である院長のシンシア・マウン医師と診療所の20年以上にわたる取り組みを紹介する。（本書帯より）

根本 敬氏（上智大学外国語学部教授）

「私が尊敬してやまない女性医師シンシアさんの地道な医療活動と、彼女の人格的な魅力について、本書はとてもわかりやすく紹介してくれている。メータオ・クリニックが抱える日常の苦難についても明確に書かれている。本書の日本語訳出版を心から喜びたい。」（本書解説より）



勉強会開催のお知らせ

日時：平成22年8月21日（土）18:00～19:30

場所：東京ボランティア市民活動センター 会議室C

（東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階 最寄り駅 各線 飯田橋駅）

内容：「JAMは現場で本当に役に立っているのか」

定員：15名（先着順）

特典：申し込み先着3名に、7月20日発売の『タイ・ビルマ国境の難民診療所—女医シンシア・マウンの物語』（新泉社、定価1800円）をプレゼント。

対象：メータオ・クリニックおよび移民/難民支援に関心のある人。学生も歓迎。非会員も可。

使用言語：日本語

参加希望の方は

support@japanmaetao.org（担当：岡谷）へメールをお送りください。

題名を「8月21日勉強会参加希望」とし、
メール本文に「氏名、所属、連絡先」を明記してください。

勉強会終了後、懇親会を予定しております。皆様ふるってご参加ください。

現地スタッフ帰国報告会及びJAM総会

8月をもちまして現在JAM現地スタッフとしてメータオ・クリニックで活動している田辺文医師がその活動を終了します。

1年間にわたる田辺医師の活動をご報告するとともに、タイ・ビルマ国境で取材をするアジアプレス所属フォトジャーナリストの渋谷敦志氏をお招きし、最新のタイ・ビルマ国境、メータオ・クリニックの現状をお伝えする予定です。

日時：平成22年9月5日（日）15時～

（現地スタッフ報告会は16時より）

場所：JICA地球ひろば セミナールーム303

（東京都渋谷区広尾4丁目2-24 最寄り駅：各線 広尾駅）

発表者：JAM現地スタッフ 田辺文医師

招待ゲスト：フォトジャーナリスト 渋谷敦志

詳細スケジュールにつきましては8月の会報にてお伝えする予定です。



メソト・マンスリー



今月のメータオ・クリニックの様子をお届けします。

【メソト（タイ北西部）＝田辺文】

内科隔離病棟の改築始まる

JAM 会員の皆様からのいただいた寄付金、大阪コミュニティ財団からの助成金で、メータオ・クリニック内科隔離病棟の建て替え工事をさせていただいています。

この建物が建ったのは1999年。もともと患者さんを入院させるために造ったものではなかったため、壁は1メートルほどで外から丸見え、トタン屋根に天井はなく雨漏りがひどい・・・という粗末な作りでした。

残念ながら、隔離が必要な患者さんや終末期の患者さんがここを利用することが多く、雨の吹き込みや雨漏りを避けて患者さんを動かすのに家族が苦勞している姿、クリニックスタッフや患者さん家族の居住区や炊事場にも近いため、子ども達がのぞいたり病棟からの排水に手をつけたりといった様子も見られました。

新しい建物は、隔離室が2部屋用意され、中央にスタッフの勤務室と検査室を設け、消化

管感染症に備え中にトイレも常備されています。

メータオ・クリニック内科病棟では、昨年110人のHIV患者さんが入院し、そのうち23人が亡くなりました。

また、139人の結核患者さんが入院し21人が亡くなりました。

今年4月から現在までに22人のコレラ患者さんが入院しています。

空気感染や接触感染をおこす病気、免疫の落ちている患者さん、どちらも今ある設備と資源で最大限ケアしていくしかない現状です。

みなさんから頂いた寄付は、こうした患者さんたちとクリニックスタッフの共同生活を少しでも安全に快適にするために役立っています。



写真左：旧内科隔離病棟、



写真右： 建て替え工事の様子

きょうのゆめ

今月は、ズィン・マー・ウーちゃん 6歳 です。



カレン州のコーカレイで生まれました。
小さな時から胸が痛くなったり苦しくなったりすることばかりでした。
モラヤイン（モン州の州都）で心臓の病気と診断され、
ヤンゴンに行って手術をしないと死ぬといわれました。
でもお金がなかったのでメータオ・クリニックに来ました。
メータオ・クリニックから、オーストラリアの人の助けで
チェンマイの病院に送ってもらい手術を受けることができました。
いまは走ることもできます。
将来のゆめは、汽車にのること。



汽車でどこに行くの？

オーストラリアに行くの！

とある日の朝 ～ブログ Borderless Border's より～

患者寮で臨月のお母さんが朝、死んでいたそうです。

「ええ～？」

「この手術室で帝王切開するんだって」
「なんだ、びっくりした、死にそうなのね」
「いや、死んでるんだよ」
「??」

話がかみ合わないのも無理はなく、信じられないことがおきました。
となりの産科のメディックが遺体を手術室に運び込み
死んだお母さんのおなかと子宮を切り開き、死んだ胎児を取り出すのです。

あまりに凄惨な光景に
脳みそがぐらりと動く気がしました。

「どどど、どうして出さないといけないのよ！」

そう聞くと同僚はけろりと答えました。
「お母さんがおなかの子どもと死んだときは、一緒に埋めたらいけないんだよ。
身重のままの姿で幽霊になって
埋葬した土地に入ったすべての人に危害を加えるようになる。
だから産ませてから埋めるんだよ。
病院が遠い人たちは、家で切って出すんだよ。」

今朝の患者さんはビルマ族でしたが
他の民族でもある習慣らしい。

そうなのか。



つらい状態で埋葬しない
お母さんへの気づかいなのかなあ。

1年もいても 知らないことがたくさんあるものです。
ちょっと責めるような言いかたしちやっかなと反省しました。

たずねびと ～ブログ Borderless Border's より～

メソトから山道を6時間
ヌポー難民キャンプにて
日本語を話す、日本のおばちゃんの笑顔の女性に会いました。

42歳。
15年ほど前、高田馬場で日本語を習いながら、事務所でアルバイトをしていたそうです。

帰国後、就職活動をしますが
国民民主連盟（NLD）の重役を父親に持つ彼女。

当局の家宅捜査は、夜中に突然やってくることもありました。
1回目、2回目・・・3回目に父親は、逮捕されていきました。

雑貨屋さんで豆をよりわけたり荷物を整理したりして
生活を支えていた彼女は
音楽や映像の製作会社に務めるだんなさんに会い、結婚しました。

子どもが8ヶ月になった2007年9月のサフラン革命。
デモの鎮圧後、家宅捜査。1回目、2回目・・・
3回目に来る前に家を出ました。
子どもには4枚。夫婦はそれぞれ2枚ずつの シャツの着替えだけを持って。

苦労の末にたどり着いたヌポーキャンプで おだやかに暮らせていると言います。

「どこか他の国に行きたいですか？」

「どこどこに行けと言われたら そのとおりにする。私たちには選択肢はないわ。」

こぼれるような笑顔で
でも、出た言葉は悲しいものでした。

「日本にいた時、いずみだまさこさんって人にあっただのね。
ほんとに優しくかった。
私、一生忘れないと思う。かぞくみたいにして。
連絡先はヤンゴンにおいて来てしまった。
3年も帰ってないから、もう家はないと思う。
死ぬ前にもう一度会いたいなあと思うけど、多分無理ね。
でも、死んでも天国で会える。日本、楽しかった。」



1968年生まれ タンタンさんと呼ばれていた女性です。

いずみだまさこさん

どこかにいらっしやらないでしょうか？

★★ 現地での活動を日々、更新中です！ ★★ ぜひ、ご覧ください。

Borderless Border's (田辺文のブログ) <http://www.japanmaetao.org/blog/borderless/>

メータオ・クリニック支援の会ホームページにアクセス ⇒

活動・レポート・PR方法 ⇒

「現地からのレポート」 Borderless Border's

国内から

メソト周辺のビルマ人移民学校について

【東京＝秋山 剛】

会員の皆様には、日頃から当会の活動にご支援いただき、お礼申し上げます。

私は、2008年に初めて、メータオ・クリニックの学校保健チームと活動を開始しました。約3年経ちましたが、3年といえば、長いようで短く、短いようで長い期間です。メソトの街も、某フライドチキンのチェーン店が開店したり、訪れるたびに少しずつ、変化しているように思います。

当会では、移民学校における学校保健について、その評価のための調査や、モデル校の水ポンプなどの支援を実施しています。学校を通じ、感染予防や健康状態の向上といった良い影響が移民の子供たちへ与えられればと考えています。

しかしながら、一口に移民学校といっても、なかなか理解しがたいとも思います。そのため、この機会を利用して説明をさせていただきたいと思います。

タイとミャンマーとの間の経済・社会状況

の格差、またタイ経済の成長に伴う労働者需要が、ミャンマーからタイへの移民流入の原因となっています。世界銀行の資料によると、2004年には、81万人の移民労働者が登録され、そのうち、61万人がミャンマーからの移民でした。しかしながら、この他に多数の未登録の移民の存在すると推定されています。

以上のような状況から、たくさんの移民の子供たちもタイで生活していると考えられます。なお、タイの学校制度では、すべての児童は、その法的立場にかかわらず(たとえ不法滞在であっても)小学校入学の権利を持っています。

しかしながら、実際は、多くの移民の児童は、タイの正式な学校に通っていません。ビルマ人移民の子供で、タイの学校に通っているのは13%程度と言うデータもあります。

このことについては、いくつかの理由があげられています。ひとつには、言葉の問題が考えられます。タイの公式な学校は、当然のことながら、タイ語で教育を実施しており、



ビルマ語を母国語としている子供、また親にとって、そこに入学することを敬遠するかもしれません。また、多くの移民が不法滞在している状況で、親が、摘発や強制送還をおそれ、公的教育機関への入学を避けているかもしれないと言われています。

そのような移民の子供たちの教育機会を提供するために、タイのメソトには、2008年の時点でビルマ人移民のための移民学校が44校ありました。メータオ・クリニックのある、メソトは、ミャンマーからタイへの移民の主要な流入ポイントの一つで多くの移民が暮らしています。

移民学校の運営母体は、教育団体であったり、個人であったり、様々です。しかしながら、その予算については、皆、NGOなどからの支援に頼っています。中には、土地はタイの地主からの善意により、無料で使用させてもらっている学校もありますが、土地代を払わなければならない学校もあります。お寺に併設されている学校もあり、キリスト教系NGOで運営されている学校、また、イスラム系移民の学校もあります。なお、タイ政府と移民学校側とで、その卒業資格が正式なものになるよう、話し合いの段階にあると聞いています。

移民学校の校舎は、農村の小規模な学校では、一般家屋と、さほど変わらない建物を使っているところが多いです。メソトの市内では、アパートの1, 2階を使っている学校も

あります。広さに恵まれず、かなり窮屈そうに子供たちが勉強しています。村によっては、電気がないところもあります。

しかしながら、農村地帯の、多くの学校が問題としているのは、水の確保です。大概、村に井戸はありますが、学校から離れていた谷にある学校もあり、そのような学校では、生徒がバケツと天秤棒で水汲みに行っています。

すでに述べましたとおり、当会では2008年から移民学校での学校保健について、事業を展開しています。2009年7月には、学校保健評価で、優秀な結果をだした7学校について、表彰式を開催しました。2010年も上記は継続され、今回は、9校が表彰対象となりました。さらに、2010年には、Hope School と Green Water School の2つの移民学校をモデル学校として、水ポンプの支援を実施しました。両学校とも、設備などは比較的、劣悪な条件にありますが、その意欲は高く、改善が期待されます。

今年は残念ながらスタディ・ツアーはタイの状況により、中止となりましたが、次に開催される際は、是非、現地の移民学校と、元気に学ぶ子供たちの様子を見ていただきたいです。

編集後記

先日、大河ドラマの舞台がいよいよ、長崎になりましたよ！と大盛り上がり中の長崎に行ってきました。

長崎に行ったのは、実は約20年ぶり。まだ、ハウステンボスが「オランダ村」だった頃。

20年前に食べた、屋台で売られているこのチリンチリンアイス（写真）を再び、食べたかったんです。よく見てください。バラの形ですよー。



うちのばあちゃんが、びーどろ買ってくれたなあとか。弟がうっかり割っちゃってセロハンテープ貼ってパッと見では気づかないようにしていたのだけどそれに気づいた私は、ショックで泣いて泣いて大騒ぎしたなあとか。



あまりに泣きすぎたので
近所のおっちゃんが福岡に出張したときに
長崎に足をのばしてくれて新しいびーどろ、買ってきてくれたなあとか。
懐かしい思い出がよみがえりました。

次号の予定

次号のJAMの会報は、8月中～下旬ごろ発行の予定です。
ホームページは、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。



メータオ・クリニック支援の会 **Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)**

日本事務局宛て E メール : support@japanmaetao.org

ホームページアドレス : www.japanmaetao.org

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。



